

全国有数の漆の産地である大子町の山林で9日、漆かき体験会が開かれた。大子漆の保全活動に取り組むNPO法人麗潤館（矢崎孝子理事長）が企画し、県内外から約18人が参加した。

本県の漆の生産量は全国第2位で、その大部分を大子町で産出している。

近年は安価な中国産漆の影響や、過疎化による後継者不足などを

## 大子で漆かき体験会

### 「伝統の重み感じる」

抱えており、体験を通じて漆の魅力を地元の人々に知ってもらおうのが狙い。

参加者は地元企業の社員や、木工品を制作する作家、漆に興味を持つ応募者などさまざま。

各グループに分かれ漆の特性や道具の説明を受け、大子漆保存会会長の飛田祐造さんの実演を見学した。熟練の技術に「伝統の重みを感じる」との声が

上がった。実際の体験は終始和やかな雰囲気が進められ、参加者は「（木は）堅いですね」「なかなか難しい」と樹皮を剥ぎ、玉のように盛り上がる樹液を集めた。矢崎理事長は「（漆が）地元の産業として軌道に乗るまでの手伝いをしたい」と話した。

（安ヶ平絵梨）

漆かきを体験する参加者  
＝大子町

